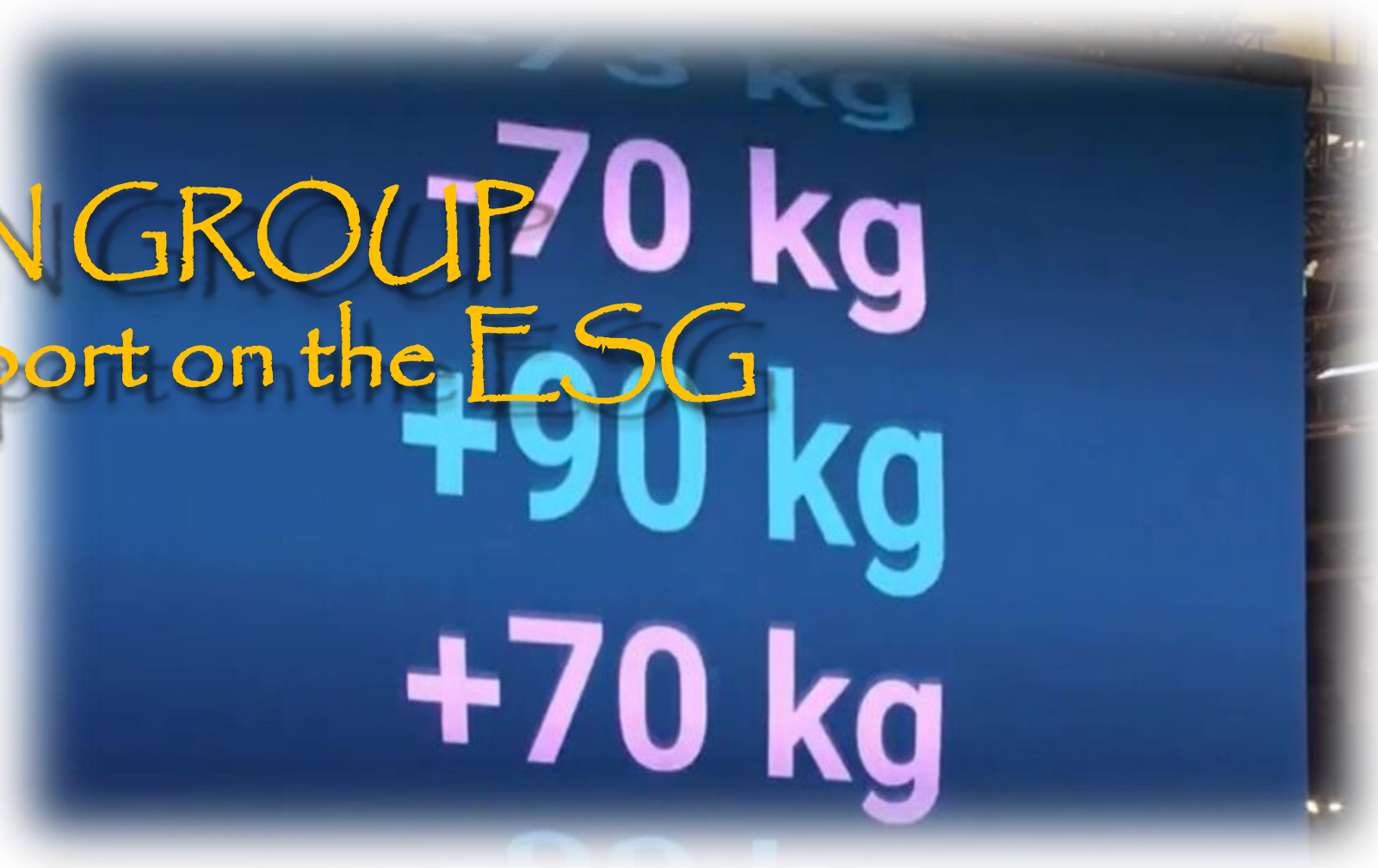


SANSHIN GROUP

Monthly Report on the ESG

Aug. 2024



INDEX

1. TOP MESSAGE
2. グループ社員による今月のつぶやき
3. ESG Report (品質)
4. ESG Report (環境)
5. ESG Report (地域貢献とワーク・ライフ・バランス)
6. サンシングループの経営理念とCSR
7. 経営戦略体系と管理会計のかかわり
8. サンシングループの社会的責任
9. サンシングループの企業行動基準
10. サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ
11. 未来形から問題を解決するソウレンハウ

TOP MESSAGE

新潟県長岡市の交通の要でありシンボリックな「長生橋」は、今年で84周年を迎え大規模な補修工事を行っている。

近年、橋の劣化問題が大きな課題となっている新潟では信濃川や阿賀野川と言った大きな河川を中心に流域には橋が多く建設されている。

国土交通省公開の道路統計年報2021の県別橋梁数によると、新潟県は全国で15位となっているが、多くの橋は高度成長期に建設されたものであるため、設計寿命が近づいているものや、すでに設計寿命を超えているものが多数存在し、対策が必要な橋の数としては全国で1位だという調査結果がある。

橋の劣化は、経年劣化だけでなく、新潟県特有の地形による塩害、冬の凍結防止剤などによる劣化などがあげられるが、管理費用のカットだけでなく再劣化しないような長寿命化工法の導入など様々な対策が求められ、田中角栄元首相の強烈な後押しの中、“作ること”が第一の目的だった時代から、将来を見据え“どう維持していくか”にシフトし、様々な角度から検討が進んでいるようだ。

「橋」という私たちの生活に密接にかかわる事例から、安全で暮らしやすいまちづくりに、何ができるか見つめ直す機会にしたい。

グループ社員による今月のつぶやき

SANSHINEast

今年も暑いです。先日わけあって岐阜県美濃市を訪れていたのですが、ちょうど全国一位の暑さを記録した日でした（40.0℃！）。アスファルトは鉄板のように熱く、太陽光と照り返しで上下から焼かれるようで、以前より猛暑が厳しくなったことを身をもって体感致しました。命に係わる暑さ...、なるほど納得です。（Y.Y.）

SANSHIN Hong Kong

低炭素環境保護はすでに世界公認の目標であり、人々は創造に努力している。未来の世界は石化エネルギーを使わず、太陽エネルギー、風力エネルギー、水エネルギー、潮汐エネルギーなどを使用拡大している。原子力の使用は環境に優しいが、しかし安全上の危険性がある。電気エネルギーの貯蔵は重要な技術であり、世界各国は新しい電池の充電と貯蔵の新しい技術を研究している、それとも研究中の核融合などもあります、突破すれば、グリーンエネルギーは100%この世界にやってくる。中国政府は2060年に炭素中実現することを約束し、この日ができるだけ早く実現することを望んでいる。（M.X.）

CSI

セブの季節 雨期は6月～10月になります。今雨がが多くセブでは Dengue 熱が流行しています。成人が発病する確率は低いのですが、年配者や乳幼児が掛かると危険ですので、作業者に注意喚起を行っております。（K.S.）

SANSHINWest

昔から洪水や干ばつなどの異常気象が発生していますが、50年前と比べると異常気象の発生件数は5倍になっており、いつどこで災害が起こるか分かりません。9/1は防災の日です。改めて防災対策をしておきましょう。（F.H.）

SHINKOWA

毎日暑い日が続いております、普通に35℃とか36℃などの気温表示が出ていますが、ほぼ体温に近い温度です、室内もかなり暑いので少し涼しく感じるような温度設定で過ごしましょう。それにしても毎年夏の気温が上昇しているようで心配になります。熱中症に気を付けて体調管理をしっかりと行いましょう。（M.N.）

SC2

洗濯物を外干しする隣家の洗剤臭が不快なため、空気質測定器で測定。なんと大気質指標は128（50を超えると人体に有害）、ホルムアルデヒドは1.2mg/m³（WHOガイドラインは0.1mg/m³）を叩き出す。たった一軒の洗濯物でこの汚染度。それでも自分さえよければと使用をやめない人だらけ。どうする日本。どうなる日本。（M.I.）

ESG Report (品質)

サンシングループの品質方針

サンシングループは、品質マネジメント・システムの効率的な運用により、お客様の満足にかなう企業活動を行い、社会へ貢献していくために、以下の品質方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も品質マネジメント・システムを遵守し、お客様に信頼される品質の提供に努めて参ります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して品質の向上に努めて参ります。
3. 品質マネジメント・システムは、定期的な内部監査及びマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善を図って参ります。

品質への取り組み

要因分析

<品質管理の基本である5M>
Material (材料)、Machine (製造機械)、Method (製造方法)、
Man (担当者)、Measurement (計測)

段取り

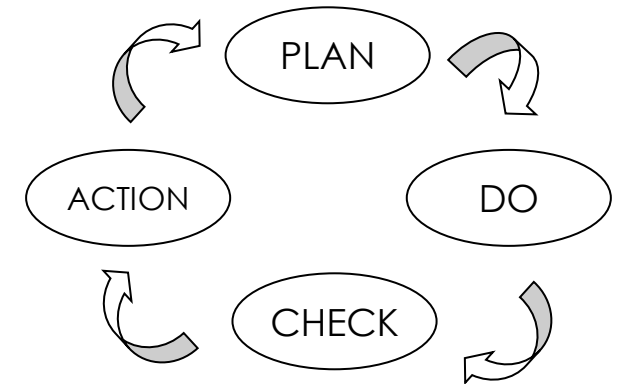
<仕事の段取り5W3H>
5W : When (いつ)、Where (どこで)、Who (だれが)、What (なにを)、Why (なぜ)
3H : How (どのように)、How much (いくら)、How many (どのくらい)

行動

<製造の基本である3現主義>
現場、現実、現物

管理

<品質管理の基本はロット管理と変更管理>



- EMS先との継続的な品質会議の実施。(1回/隔月)
- 定期監査の実施。(1回/1年程度)

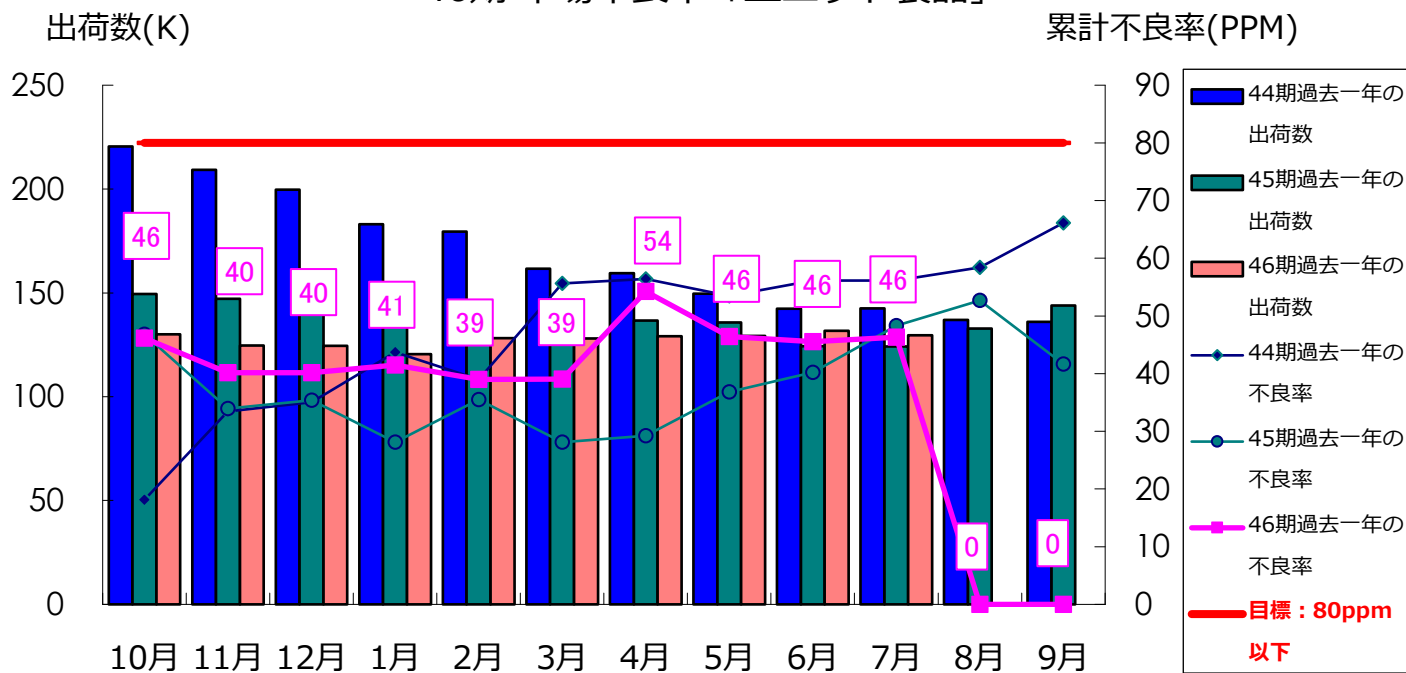
* 最も大事なのが、継続させるための「**個人の意志**」である。

品質状況

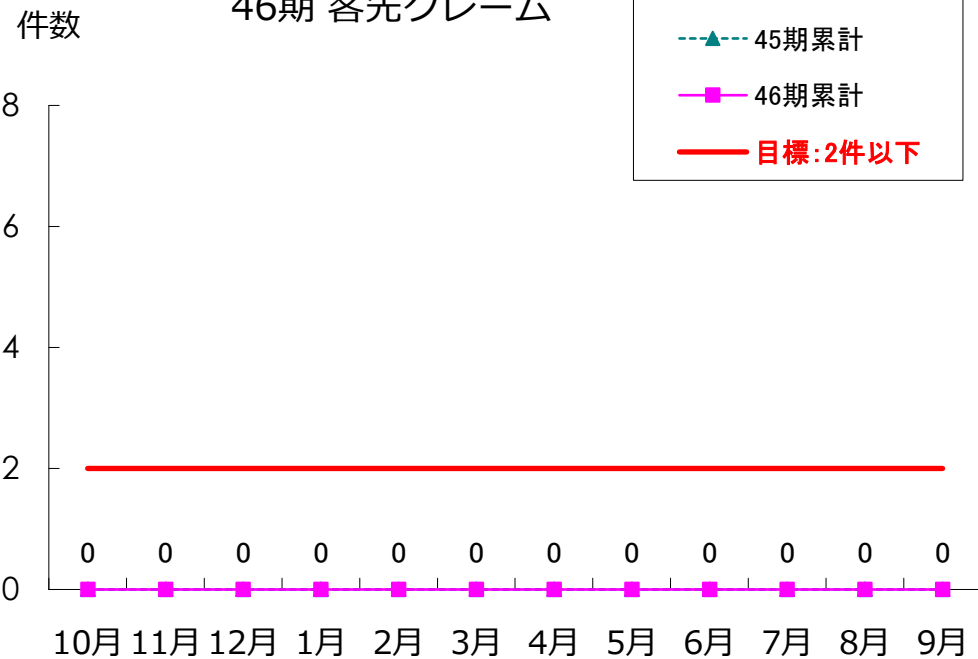
納入品不良率 (目標 : 80ppm)
 46期の累計不良率(解析依頼含む) : 46ppm

客先クレーム (目標 : 2件以下) : 0件

46期 市場不良率「ユニット製品」



46期 客先クレーム



ESG Report (環境)

TOPICS

□ パリは最もサステナブルな五輪を開催できるのか？

2024年7月26日よりパリで100年ぶりにオリンピック・パラリンピックが開催されています。今回のパリ大会は「史上最も環境に優しいオリンピック」を目指し、多くの注目を集めています。パリ大会がこれまでのオリンピックと大きく異なる点は、温室効果ガスの総排出量に制限を設けていることです。2012年にロンドンで開催されたオリンピックの排出量と比較して、パリ大会では50%以下に抑えることが目標とされています。

今回の注目は「街全体を競技会場にする」という前代未聞のコンセプト。新しい建物を建てるのではなくエッフェル塔やコンコルド広場など街中のシンボルが競技会場となり、開会式はセーヌ川で行われました。

開会式を数日後に控えたパリの街中は、道路や歩道はフェンスで囲まれ、セーヌ沿いには観覧席が並び、多くの橋が閉鎖されました。街中は厳重な警備体制が敷かれており、住民の中には自分のアパートに帰るのに警察が発行するQRコードが必要な人もいたほどでした。

今回は「史上最も環境に優しいオリンピック」といわれるその内容をお伝えします。

□ イベント関連のCO2排出量を約175万トンに抑える

これまでのオリンピック・パラリンピックでは、大会終了後にCO2排出量が計算されていました。しかし今回のパリ大会ではカーボンフットプリントを正確に評価できるツールを用いて、大会準備の「avoid（回避）」、大会中の「reduce（削減）」、大会後の「offset（オフセット／相殺）」各ステップの前に排出量を集計していることが大きな特徴です。

こうした評価ツールは、パリが開催地として立候補したときからすでにさまざまな選択時の指針として用いられ、大会運営を通して幅広く活用されてきました。これらの施策により、パリ大会関連のCO2排出量を約175万トンに抑えることが計画されています。

CO2排出抑制の対象範囲は、スコープ3まで広がられています。このスコープ3には、電気や燃料等のエネルギーの使用などの直接的な排出に加え、観客の移動や備品の配送などに伴う排出による間接的な影響も含まれます。独自の仕組みとして大会スタッフやパートナー、スポーツ関係者、市民ら競技大会に関わる全ての人々がカーボンフットプリントを認識しながら削減を目指せるアプリ「クライメイト・コーチ」を開発しました。

また、回避が不可能な排出に関してはカーボンクレジットを購入することでオフセットするとしています。

TOPICS

□ 会場の95%は既存の建物を利用

今回のパリ大会は、これまでのどのオリンピックよりも街の宣伝になると言われています。エッフェル塔はビーチバレーやブラインドサッカーの会場になり、コンコルド広場は野外アリーナとしてスケートボードの会場に、ベルサイユ宮殿は、馬場馬術の舞台となります。開会式はセーヌ川で行われ、1万人の選手を乗せた約100隻のボートが巡航することになります。

過去に1900年と1924年のオリンピック、1998年のワールドカップを開催したパリには、必要な施設がほとんど揃っていました。そのため、今回のパリ大会では廃棄物を出さないために、リオデジャネイロ、ロンドン、東京のオリンピックのような大規模な建設プロジェクトを避けたのです。

オリンピックは、開催都市がインフラ整備や都市再開発プロジェクトを迅速に進めるための手段であるということはよく言われますが、パリ大会では使用される施設の95%を既存の会場または一時的な仮設インフラでまかなうことを約束しました。パリ大会で競技が行われる35のスタジアムのうち、新しく建設されたのは水泳センターとバドミントンおよび新体操用のアリーナの2つだけ、パリ市は予算のほとんどを既存施設のアップグレードに使い、1924年オリンピックに使われた古い施設が市内各地で改修されました。

□ 水泳競技はセーヌ川で開催？パリ市長の大躍進

こうした既存の建物を利用し、可能な限りパリ大会をカーボンニュートラルに近づけるといふ野望は、セーヌ川を水泳競技の会場にするという斬新なアイデアも生みました。

パリ市長であるアンヌ・イダルゴ氏が、水泳競技をセーヌ川で実施すると宣言してからは、「あの川で泳ぐなんて不可能だ」と、市民の誰もが口にしていました。しかし、過去数年間に約15億ドルを費やした大規模な土木工事により、セーヌ川への下水と産業廃棄物の流入が停止。2024年7月17日、イダルゴ氏自らがセーヌ川で泳ぎ、市の水質改善をアピールしたことが話題となりました。しかし、トライアスロンでは競技直前に水質不安から延期となったり、選手が体調不良を訴えたり、パリ市は、セーヌ川をトライアスロンや10キロ水泳などのオリンピック競技に使用するだけでなく、来年から一般の水泳場としても利用することを掲げておりますが、実現できるかどうかは不透明です。

TOPICS

□ 使い捨てプラゼロや、フランスならではのサステナブルな食事にも注目

今回のオリンピック・パラリンピックでは「使い捨てプラスチックゼロ」が掲げられています。市内競技会場へはペットボトルの持ち込みが原則禁止となり、マラソン競技の給水所では、再利用可能なカップを使用します。数年前からパリ市内に設置されている1,200箇所の水飲み場や、無料でボトルを補充できる市内の1,000の店舗によってサポートされ、2024年9月以降も、パリのすべてのランニングイベントで使い捨てプラスチックが排除される予定です。

また、世界トップクラスのアスリートたちが金メダルを受け取ることになる場所はなんと、ごみの上。表彰台はエッフェル塔に着想を得たデザインで、フランス産の木材と、パリ市内およびフランス沿岸で集められた廃プラスチックを利用し、100%リサイクルされた素材から作られています。

オリンピック村のアスリートレストランでは、1日4万食が提供され、1万5,000人のアスリートのために500種類の承認レシピが用意されています。食事によるカーボンフットプリントを削減するために、すべての食事はパリの主催者が設定した厳しいサステナブル基準を満たす必要があります、その80%はフランス産でなければなりません。また、各会場ではベジタリアン向けのオプションを提供する必要があり、大会期間中に提供される食事の50%以上が植物ベースとなります。

□ 低炭素の選手村計画。都市再生は促進されるのか？

オリンピック期間中は1万4,000人以上、パラリンピック開催中は8,000人以上の選手とその同伴者が生活することになる選手村。そんな選手村は7月18日、セーヌサンド二県にオープンしました。

数十棟の木造アパートメントが建ち並び、旧映画スタジオである複合施設の一部は選手の食堂に、その隣にある改装された発電所はジムとして使用されていますが、大会終了後はフランス内務省2,500人のオフィススペースになる予定です。低炭素であることを目指して用意された選手村の部屋は再利用可能な素材を用い、建設資材の75%はリサイクルしてできたものです。2020年東京大会で初めて導入されたリサイクル段ボール製のベッドも採用されています。また、生物多様性の保護（屋根の上面は、昆虫や鳥に住む場所を与え、小動物の通り穴を設けた囲いを整備する等）や、地熱エネルギーと太陽光エネルギーでの電力供給などによって、サステナブルな都市計画の一環として設計され、「循環ビルディング」と呼ばれる実験的な建物では、浄化された雨水をトイレに使用し、尿と排泄物を分離して肥料に変えています。

TOPICS

□ オリンピック・パラリンピックは街の持続可能性を高めたのか？

気候変動により、パリの夏が年々暑くなっている中で、パリ大会では選手や観客をいかに暑さから守るかという懸念が高まり、当初カーボンフットプリントを削減するため、選手村では地中から汲み上げた冷水を利用する地熱冷却システムを備え、エアコンは新設しない予定でした。しかし選手の健康を考え、最終的には臨時のエアコン2,500台が設置されることとなり、サステナビリティと人々の安全の両方のバランスをとることが難しくなっているのが現状です。

一方でパリ市は、こうした夏の暑さによるヒートアイランド現象を和らげるために近年で何千本もの木を植えてきたとしています。パリとその周辺地域の都市計画や開発に関する調査をする組織APURによると、現在パリの面積の約31%が緑地となっており、ここ数年で目に見えて緑化が加速したということですが。

「オリンピックは、都市の緑化を加速させる絶好の機会だと私たちは考えていました」と、2014年から先週までパリの都市計画担当社会党副市長を務めたエマニュエル・グレゴワール氏はThe Guardianに対して語っています。セーヌ川の汚染改善やパリの緑化だけでなく、自転車道路の整備なども含め、サステナブルな取り組みは今回のパリ大会をきっかけに大きく前進しており、オリンピックの開催が契機になったことは確かです。

□ 2024パリ大会が、大規模スポーツイベントについて再考するきっかけに

「史上最も環境に優しいオリンピック」を宣言し、ここまで準備を進めてきたパリ市ですが、それでも避けられない環境負荷や社会階層間の分断の拡大も増えてきました。歴史を振り返っても、1万人の選手および推定1,500万人の観客が集まるとされる大規模なスポーツの祭典は、典型的なグローバルイゼーションの課題を抱えざるを得ません。最大の課題は、世界各地から飛行機で観客が集まるこうしたスポーツイベントの「規模」で、環境アナリストたちは、世界が2050年にカーボンフットプリント実質ゼロ目標を達成するためには、オリンピックのような地球規模のスポーツイベントを開催するという行為そのものを全面的に再考する必要があると警告しています。

2024年パリ大会は、街の姿を大きく変えました。一方で、当初の目標値を達成したとしても、約175万トンものCO2排出がイベント全体で予測されています。気候危機の現状を考慮するとしたら、将来的にはこうしたスポーツイベントが、数百万人の観客が一つの都市に集まる現在のモデルとは異なる方法を模索していく必要があります。史上最も環境に優しいオリンピックに向けてここまで全力を尽くしてきたパリ大会が、そうした新たな可能性を考えるきっかけになるかもしれません。

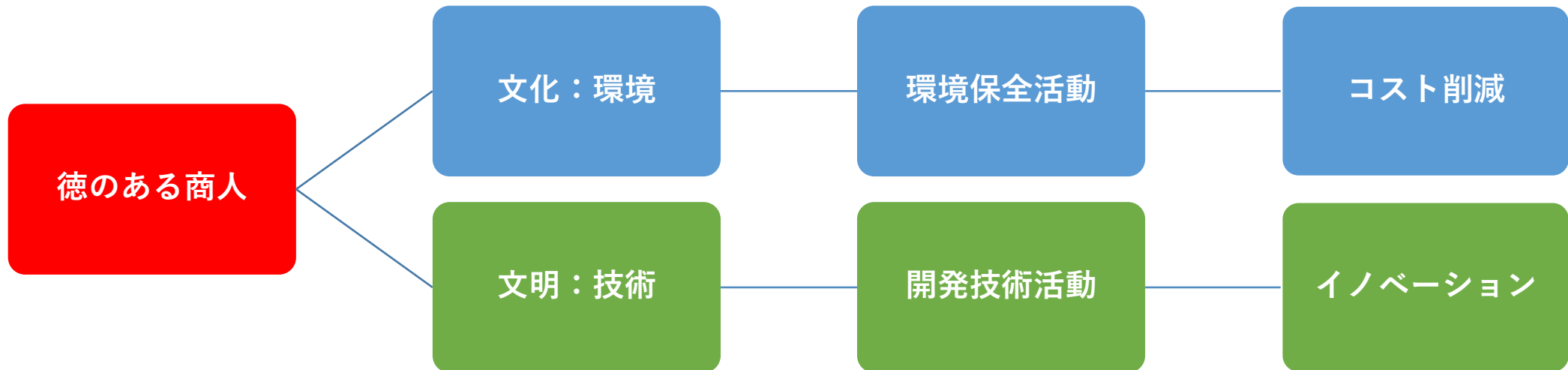
サンシングループ環境経営への歩み

1. 環境経営の基本マインド

* サンシングループ経営理念

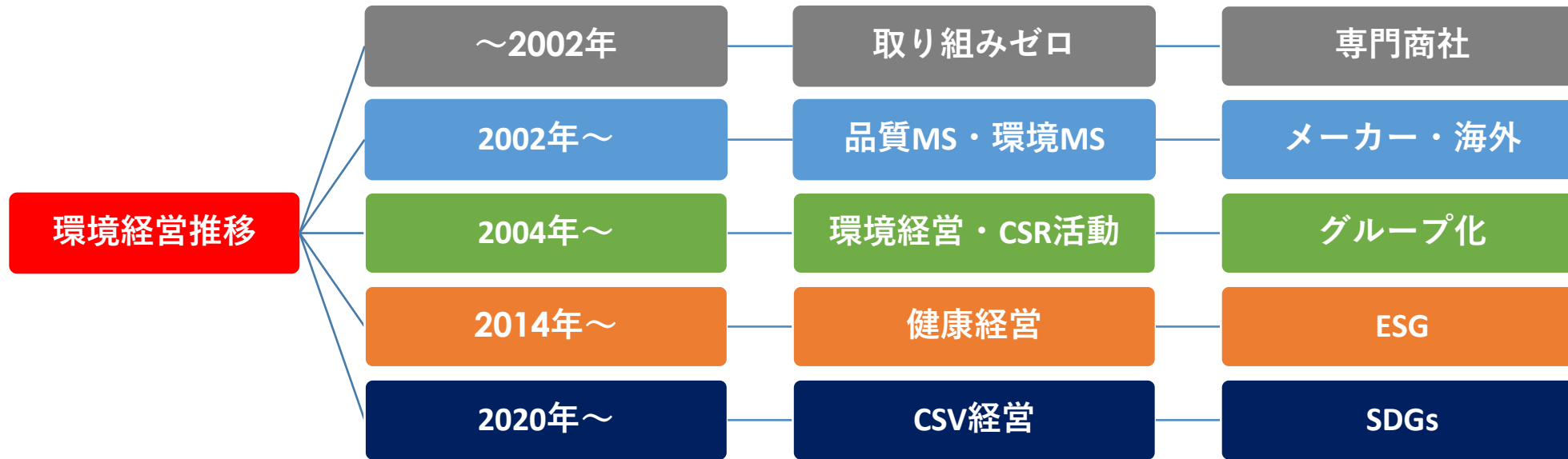
私たちは お客様を愛し お客様から愛される

徳のある商人を目指す：世界の**文化・文明**発展のために



2. 環境への取り組み

2002年から現在までの経緯



2. 環境への取り組み

～2002年

環境対応はコスト増の要因であり取り組む必要はないという認識。

2002年～

専門商社から海外商社，メーカーへと展開するなかで**環境MSを整備**。

2004年～

グループ企業体の発足に伴い**経営理念**を創設。 **CSRを能動的に展開**。

2014年～

健康経営を標ぼう，以後，東京都認定。

2020年～

CSV経営を宣言， **ESGとSDGs**を重視。

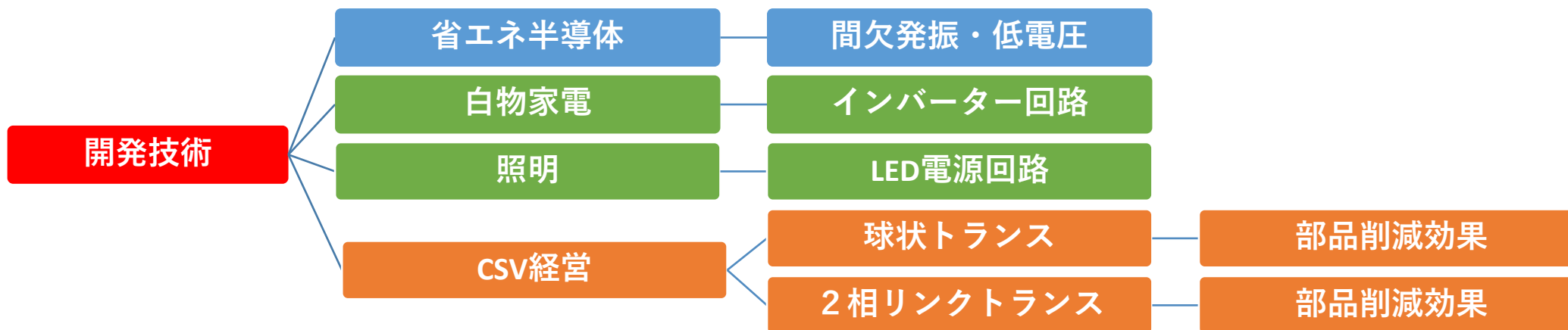
3. コスト削減実績

- **紙/ゴミ/電気**, 三種の神器, 徹底削減の継続
 - **テレワーク**による電気/交通費削減
 - 環境MS監査費用は増加（リアルコスト）
 - 環境活動時間は増加（バーチャルコスト）
 - コスト削減費用と増加費用の差額をマネジメント
- ⇒グループで年間約4,000万円※のコスト削減を実現！

※2004年度対比

4. イノベーション事例

- ・ 環境保全の開発技術ビジネス



4. イノベーション事例

省エネ半導体

専門商社として拡販

白物家電

白物家電向け**インバーター回路**の設計

照明

LED照明用の回路設計および電源製造

CSV経営

環境保全を鑑みた電子部品を**自主開発**

環境とイノベーションを結び付けた技術開発

CSV経営 モノ×コト = 価値創造

5. Scopeの対応

- Scope 1：該当なし
- Scope 2：電気排出量のみ（J/C/P合計）
『ESGレポート』掲載
- Scope 3：該当事項のみ集計
 - 4：輸送配送
 - 5：廃棄物
 - 6：出張交通費（旅費除く）
 - 7：従業員交通費

6. まとめ

- ほとんどのSME他社が取り組んでいない項目だからこそ「進取の精神」で取り組みます！
- 事業活動の中で可能な小さいことからコツコツ継続します！
- 環境保全活動はコスト削減とイノベーションのきっかけになります！
- サンシンググループはこれからもサステイナブル企業としてサステイナブルな社会のために環境保全活動に取り組みます！



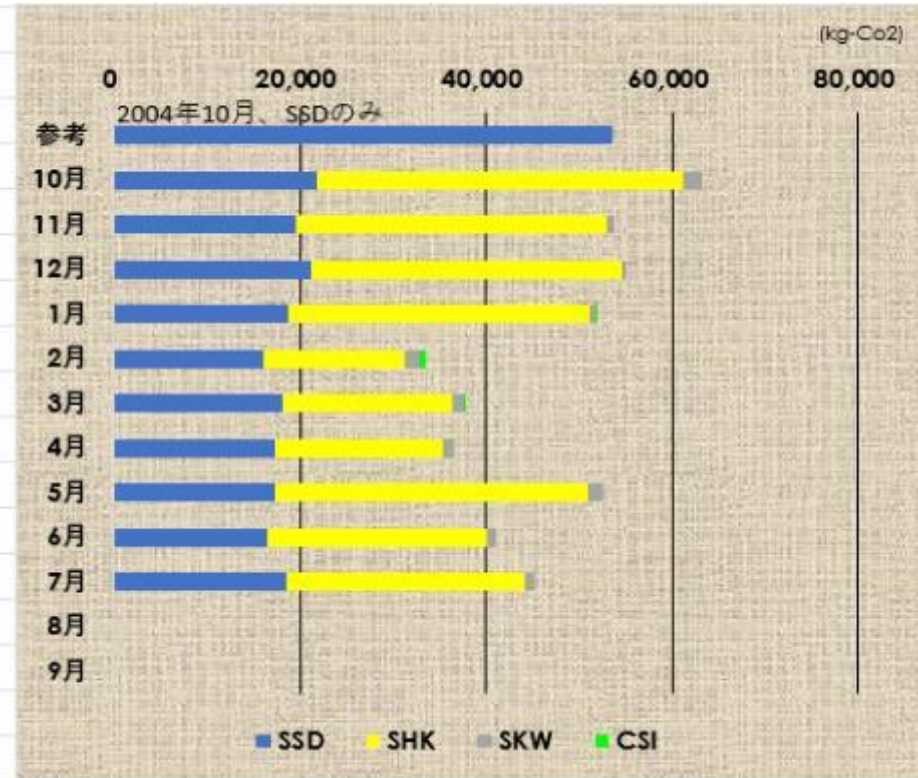
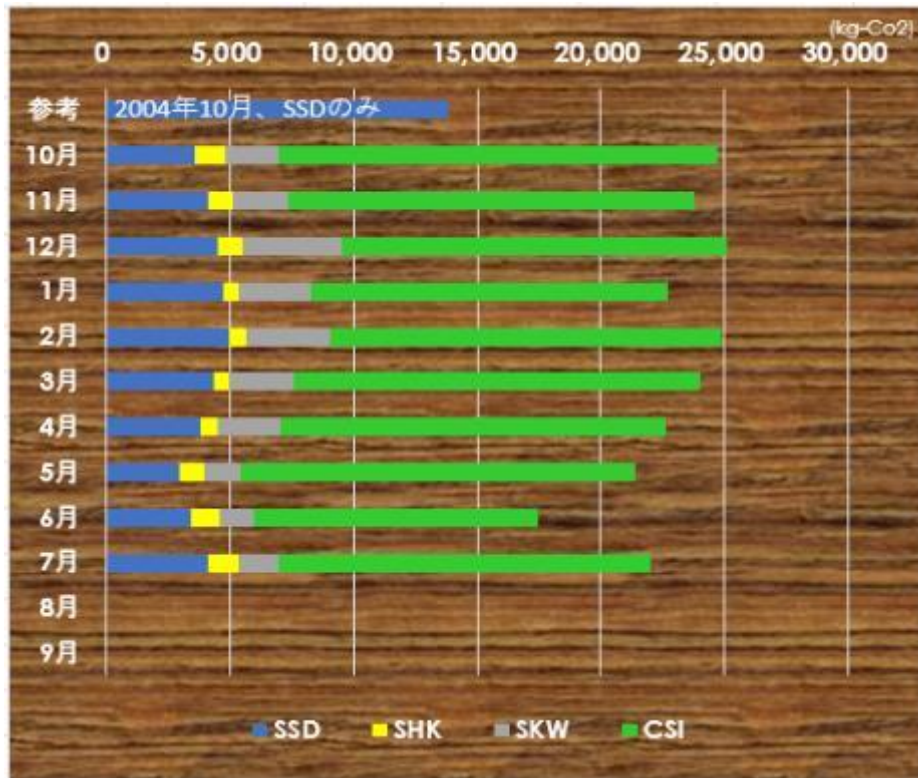
活動報告

- ① サプライチェーン排出量
- ② 廃棄物排出量
- ③ 電力使用量

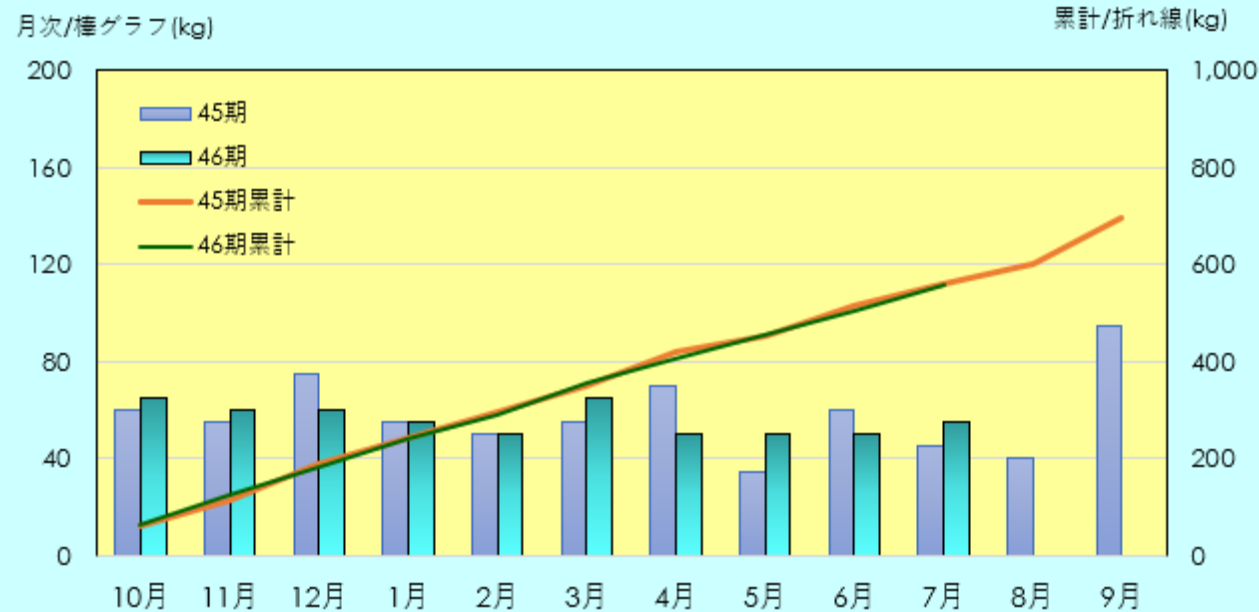
SSGサプライチェーン排出量

サンシングループではサプライチェーン排出量前年比▲5%に取り組んでいます

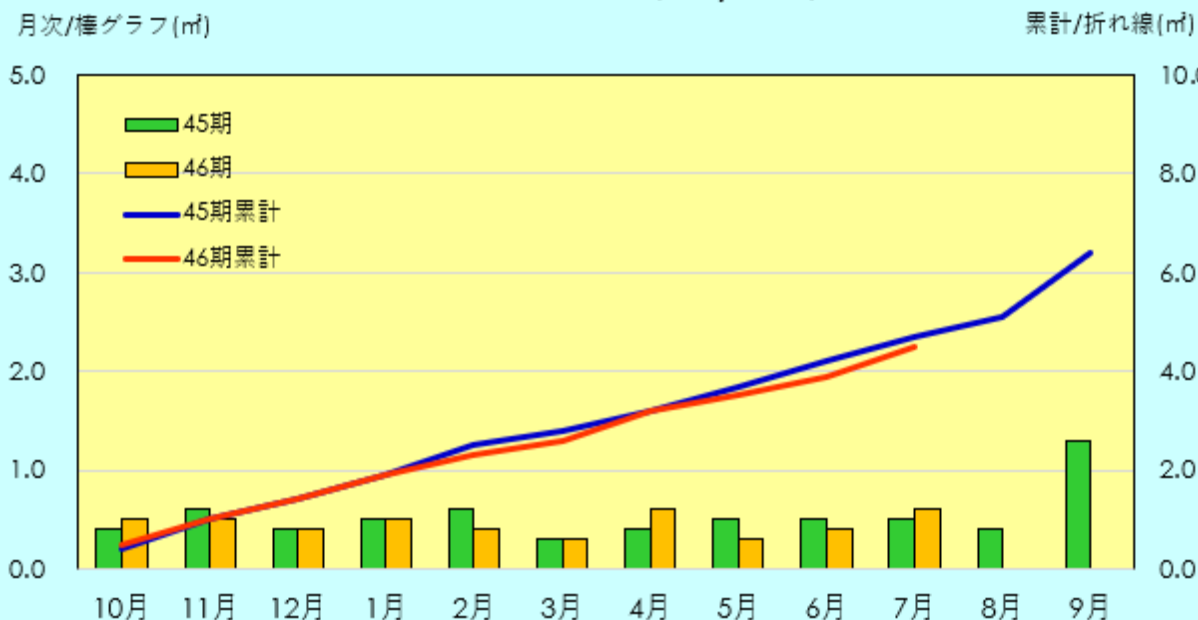
- Scope 1：該当なし
- Scope 2（他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出）
- Scope 3（事業者の活動に関連する他社の排出）



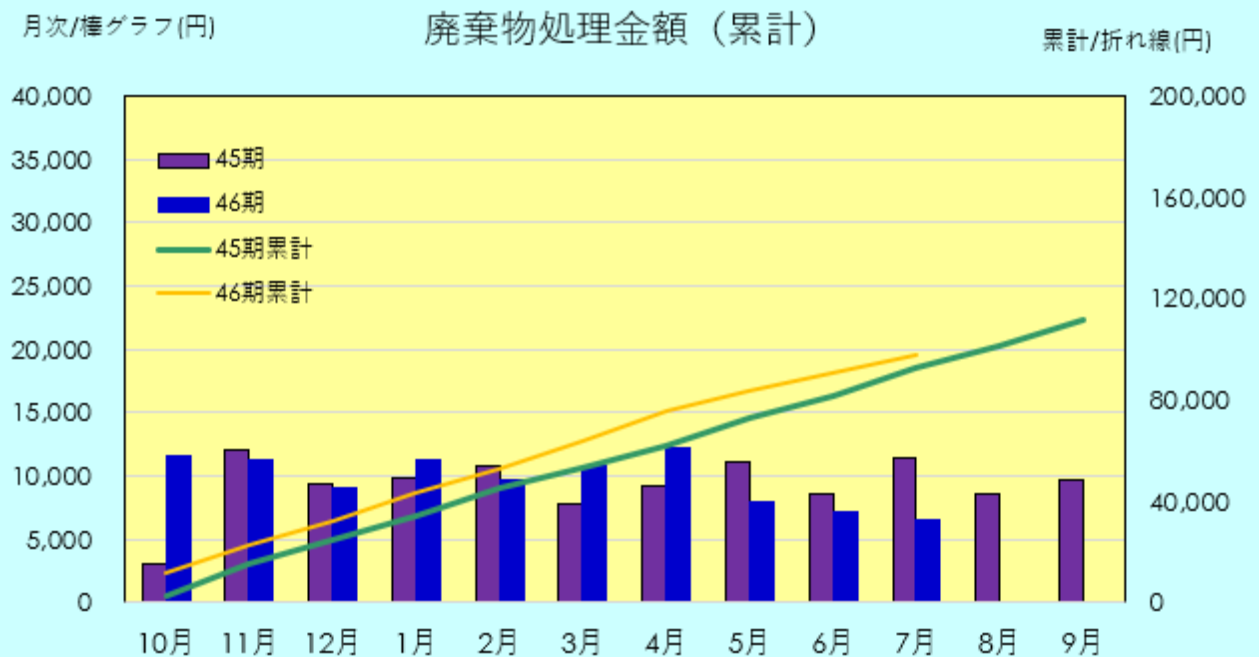
一般廃棄物 (SSD/本社)



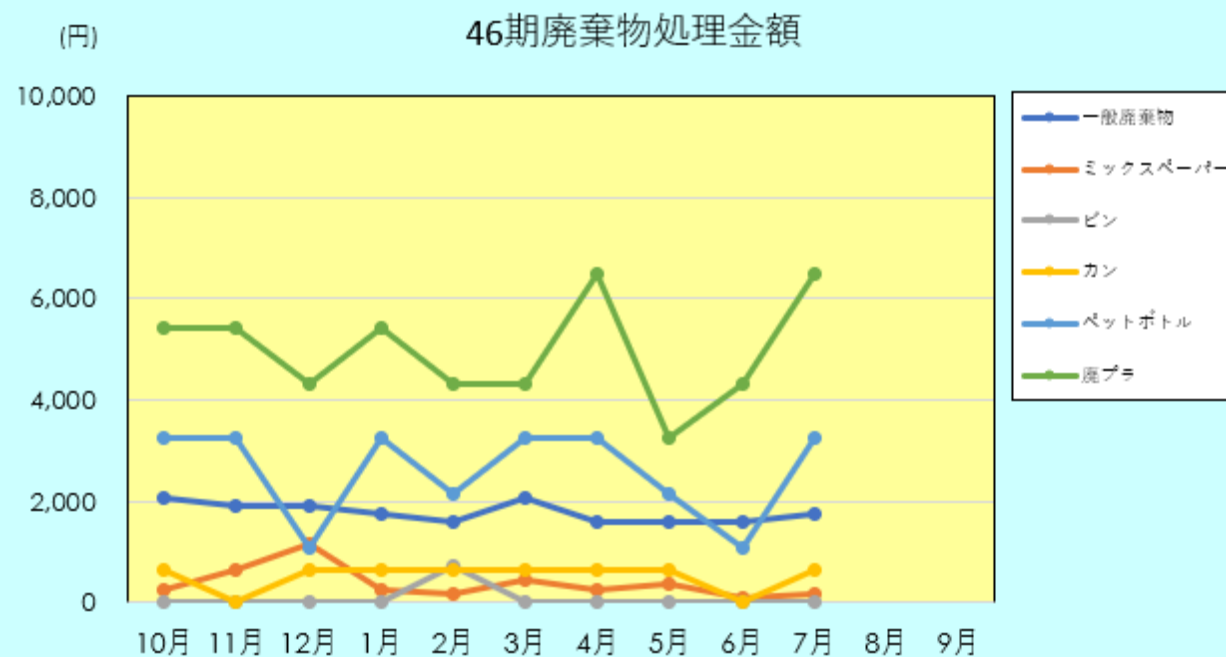
一般産業廃棄物 (SSD/本社)



廃棄物処理金額 (累計)



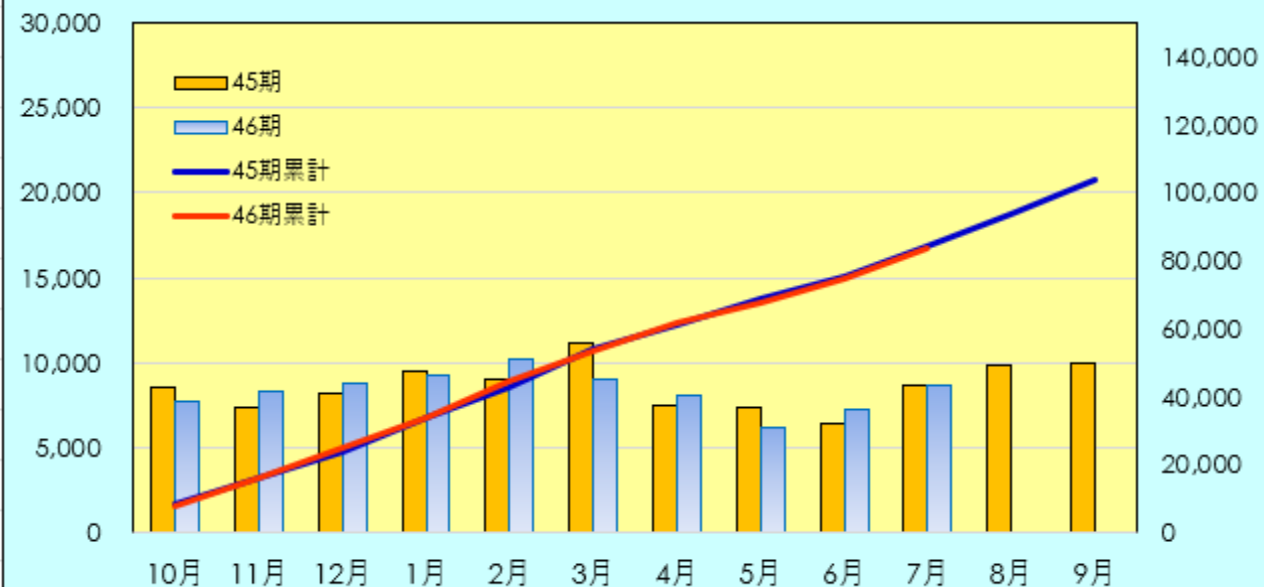
46期廃棄物処理金額



電力使用量 (SSD/本社)

月次/棒グラフ (kwh)

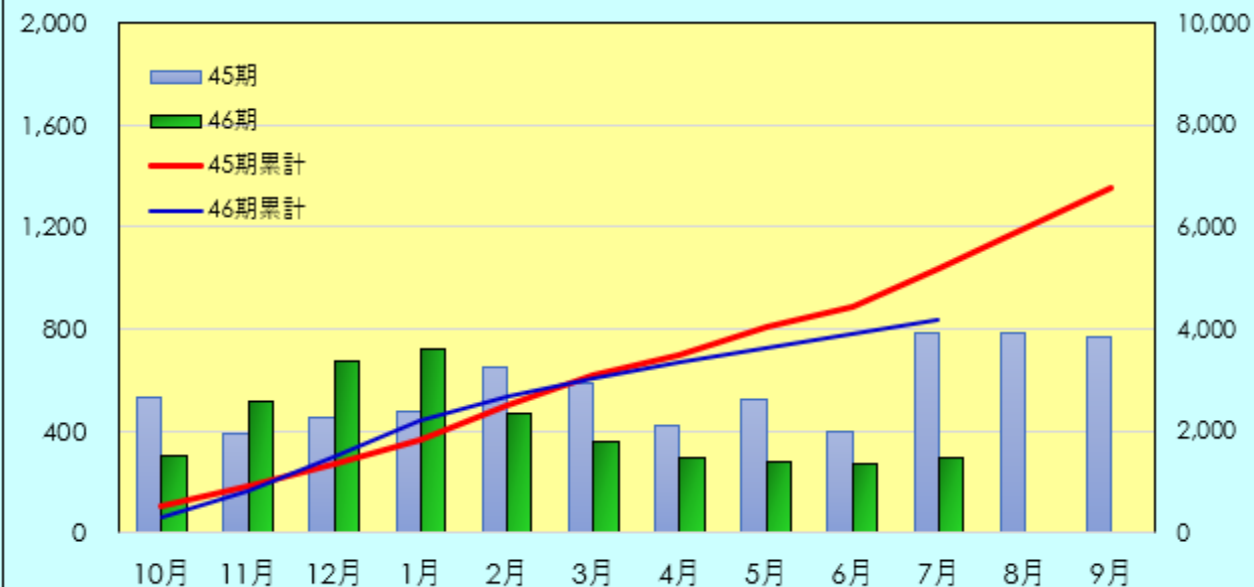
累計/棒折れ線 (kwh)



電力使用量 (SSD/関西営業所)

月次/棒グラフ (kwh)

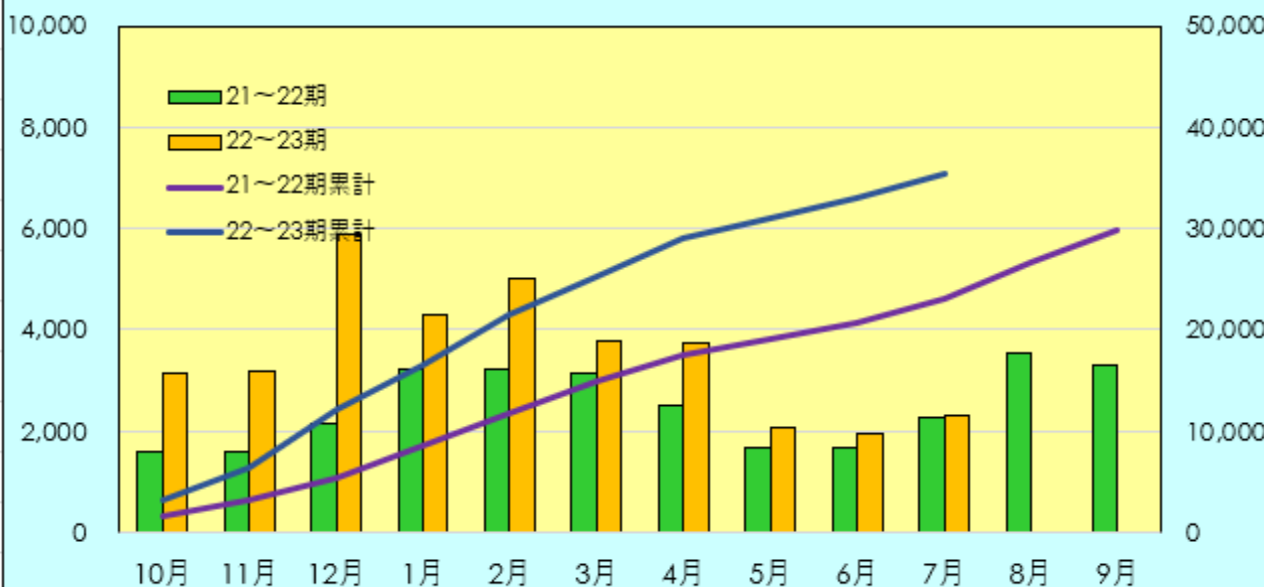
累計/棒折れ線 (kwh)



電力使用量 (SKW/朝日工場)

月次/棒グラフ (kwh)

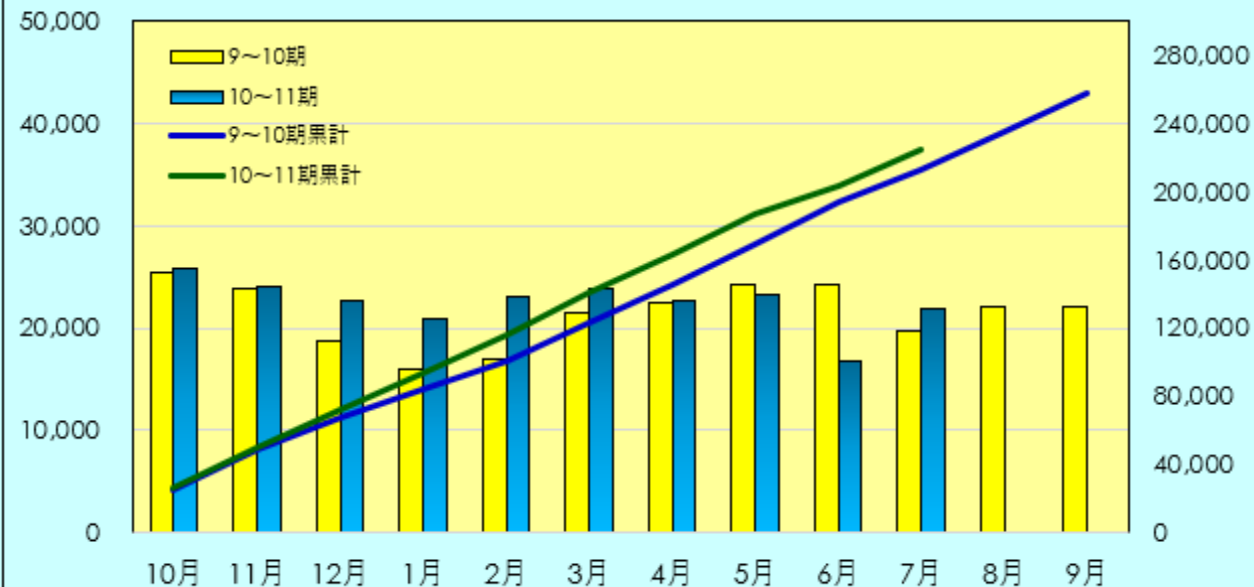
累計/棒折れ線 (kwh)



電力使用量 (CSI)

月次/棒グラフ (kwh)

累計/棒折れ線 (kwh)



ESG Report (地域貢献とワーク・ライフ・バランス)

今月のTOPICS

●一般社団法人ICTマネジメント研究会 第5回学生小論文アワード授賞式を執り行いました！

一般社団法人ICTマネジメント研究会が主催する学生小論文アワードの授賞式を8月5日にオンラインにて執り行いました。

小論文12本（大学生3本、高校生9本）の応募があり、厳正な審査の結果、優秀賞4組・石井賞1組が決定しました。

オンライン授賞式では、審査員の先生方から講評や祝福・労い・激励の言葉が贈られました。受賞者には楯・表彰状・商品券等が贈られます。

サンシングループではICTマネジメント研究会を通じて、これからも社会貢献事業を積極的に展開してまいります。



活動報告

- ①地域貢献活動
- ②ワーク・ライフ・バランスへの取り組み
- ③人財育成への取り組み

地域貢献活動

- 地域雇用の促進
- 地域清掃の実施（7月参加人数：延べ4名）
- ハンディキャップのある方々の自立を目指すお弁当宅配センターから会議用お弁当を購入
- インターンシップ実習生の受け入れ（日本、中国、マレーシア）
- 近隣の小中学校へ新聞を寄贈
- 企業メセナとして日本のワインや日本酒を購入（ミタスライフ）
- 飼い主のプロを育てる「ドッグライフアカデミー」を創設（ミタスライフ）

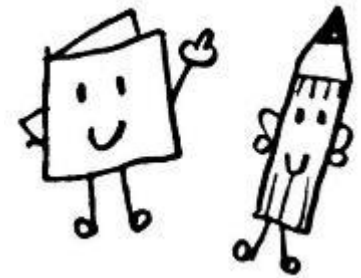


ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

- 育児休業中も休業前のほぼ半額の給与支給。行政と併せてほぼ全額受給可能（累計実績5名）
- 育児短時間勤務中も、通常と同額の給与支給（累計実績6名）
- こども手当の支給（中学生未満）
- ご家族の急な病気やご家庭の事情、社会情勢に合わせて、在宅勤務又はテレワークが可能
- リフレッシュ勤務制度（勤務間インターバル制度）の導入
- 時間単位の有給休暇取得制度の導入
- 年2回実施の人事考課にて、ご両親または20歳以下の子供を扶養している社員への加点実施
- 勤続表彰者への特別休暇の付与及び記念品を贈呈
- 毎年1回、全社員対象に健康診断を会社負担で実施
- 東京都の「感染症対応力向上PJT」に参加し、コースI（感染症理解のための従業者研修）達成（2016年1月）、コースII（感染症BCPの策定）達成（2017年12月）⇒2020年8月「感染症BCP」を新型コロナウイルス感染予防対策も含め更新！
- 全国健康保険協会東京支部より「健康優良企業・銀の認定証」取得（2024年5月更新）⇒8年連続！
- 経済産業省・日本健康会議より「健康経営優良法人2021（中小規模法人部門）」の認定取得（2017年～2021年）
- 東京都より「スポーツ推進企業」、スポーツ庁より「スポーツエールカンパニー」の認定4年連続取得（2017年～2020年）
- メンタルヘルスケアの一環として従業員用オンライン相談フォームを設置（海外拠点からも投稿可能、匿名でも投稿可能、秘密厳守）

人財育成への取り組み

- ▶ 社内にサンシン大学（SSU）を設置。経営・法務・税務・情報セキュリティ・新製品紹介・ビジネス英会話・健康促進法・eラーニング等の講義を開講（World-wideでSkype配信実施。就業時間内に開講。会社が費用負担）
- ▶ サンシングループ石井代表と選抜メンバーによる「CSV研究会」を開催中
- ▶ サンシン大学への出席実績は、年2回の人事考課で加点対象
- ▶ 自己啓発支援制度により、MBA/MOT取得や資格取得を積極的に支援
- ▶ 簿記、ビジネス実務法務検定、TOEIC・英検等の取得により職能給UP
- ▶ 他社での技術研修、経理実務研修等を実施
- ▶ 年に1度、好業績を残した社員に対して社員表彰を実施
- ▶ “情報共有システム（Intelligence Shared Systems）”の活用により、日々PDCAP’を全社で共有し、TOP MANAGEMENTとの直接のコミュニケーションが可能
- ▶ 一般社団法人ICTマネジメント研究会による「学生懸賞論文」の実施（毎年開催）



サンシングループの経営理念とCSR

We love our customers,
We're loved by our customers,
Always be a Virtuous Merchant
to contribute to Cultures and
Civilizations around the World.

サンシングループのCSRは、経営理念を全役員・全従業員が共有し、100%のコンプライアンスを大前提として、企業活動の中で経営理念を実践していくことです。

コンプライアンスの基礎となる品質マネジメント・マニュアル及び環境マネジメント・マニュアルを策定・導入し、サステナブルな企業として永続的に電機業界及び社会の発展に貢献して参ります。また、ステイクホルダーとの信頼関係の構築を通して、社会の公器として企業の社会的責任（CSR）を果たして参ります。

経営戦略体系と管理会計のかかわり



サンシングループの社会的責任

サンシングループは、企業はステイクホルダーをはじめとする社会全体と共存して繁栄し、社会的責務を伴う存在であると考え、以下の取組みを実施しています。

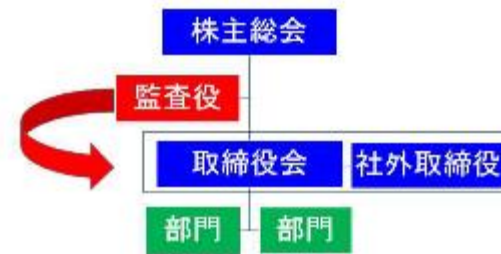
■ コーポレートガバナンス

経営者がコンプライアンスに準じた行動をしているか、コーポレートガバナンスにより、内部の業務監査を行っています。

■ CSR及び環境経営（ESG）

サンシングループではCSRに環境経営、品質保証、危機管理などの要素を含め、ホームページで活動内容を発信しています。特に環境経営はISOなどの環境マネジメントシステム（EMS）と連携した活動を実施しています。

コーポレートガバナンスと機関の役割



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、13ページ。

CSRの基本的要素



CSRの新たな要素



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、14-16ページ。

サンシングループの企業行動基準

サンシングループの倫理法令遵守企業行動基準は、「経営理念」を実践するために、企業倫理とコンプライアンスの観点から、基本的な姿勢を以下の通り定めています。

1. 私たちは、常に社会人としての自覚を持ち、高い倫理観に基づき、社会的良識に従って行動します。
2. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、関係法令および社内規定はもとより、利害関係者と取り交わした契約や約束を常に遵守し、全ての企業活動が正常な商慣習と企業倫理に適合したものになるよう努めます。
3. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、全ての人の基本的人権と個性を尊重し、オープンなコミュニケーションに努めます。
4. 私たちは、全ての利害関係者に対し、誠実に接するとともに、公平・公正かつ透明な関係を維持し、フェアな取引を行います。
5. 私たちは、会社の正当な利益に反する行為や会社の信用・名誉を損ねる行為を一切行いません。

サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループは、経営戦略達成のため、「アカウントティング・システム（財務的：定量的管理）」と「コントロール・システム（非財務的：定性的管理）」という2つのシステムから成るマネジメント・コントロール・システムズを導入しています。

このマネジメント・コントロール・システムズの「コントロール・システム」の基軸となるものとして、当グループ独自の品質マネジメント・マニュアルがあります。この品質マネジメント・マニュアルに基づき、ISO9000シリーズに準拠した品質方針、および環境マネジメント・マニュアルに基づき、ISO14001やエコステージなどの環境方針を策定しています。これらの方針に従い、コンプライアンス・品質・環境・地域貢献・人財育成等のCSR活動に努めています。



サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループでは、形式知化された業務をルール化し、業務フローと業務マニュアルを策定しています。

■ マネジメント・システム

マネジメント・システムにより業務を標準化し、企業活動に安定した品質をもたらしています。

■ 5W2HとPDCA→P' サイクル

PDCA→P' サイクルは計画策定のPlan、計画を実行するDo、計画と実行の差異を評価するCheck、評価から修正と改善を行い次のPlan(P')につなげるActionから構成されます。サンシングループでは情報共有システムなどを活用して、5W2Hを明示し、プロセスの進捗を可視化/共有しています。

マネジメントシステムの基本構成

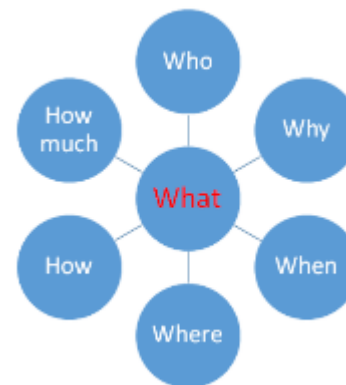


マネジメントシステムのレビュー



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、48ページ。

ビジネスの5W2H



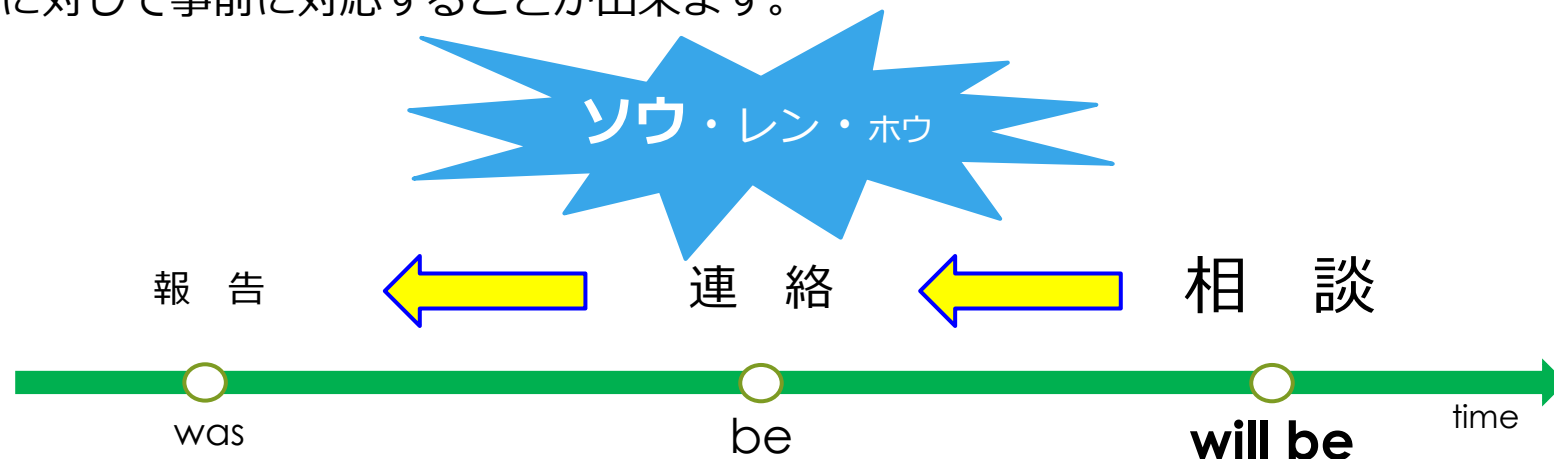
PDCA→P' サイクルの概念



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、42ページ。

未来形から問題を解決するソウレンホウ

サンシングループでは悪い問題は過去形になる前に潰すことが重要と考え、一般的に言われるハウレンソウ（報告・連絡・相談）ではなく、ソウレンホウ（相談・連絡・報告）を励行しています。ソウレンホウにより、過去形（報告）ではなく未来形（相談）と現在形（連絡）の情報を共有し、予測される問題に対して事前に対応することが出来ます。



出所：石井 宏宗[2011]『経営とは生きること -企業家に求められる3つの視点-』税務経理協会、166ページ。



編集
後記

SSD, 営業管理課 Y.Y.

最近、都心では夕方から夜にかけて突発的に大雨が降るケースが多いです。まさにバケツをひっくり返したような...という表現が似合うわけですが、この雨量や雷、また暑さを見ると日本もいよいよ亜熱帯地域に突入したのではないかと感じます。とにかく天気が急変しますのでこまめな天気予報チェックと早めに帰宅を心がけましょう。